

事業区分	文化芸術事業		育成事業			
事業名	第2回鳥取県管弦打楽器オーディション					
目的・内容	鳥取県在住及び県出身者で、将来性のある声楽アーティストをオーディションにより発掘し、県内公共ホール等での公演機会を提供したり、国内外の音楽セミナー等参加経費助成等により支援し、県内の音楽文化の向上を図るとともに、将来プロとして活躍できる人材を育成する。 【使命】多彩な人材育成とキャリア開発 【事業の柱】鳥取県総合芸術文化祭の連携推進、幅広い人材育成の推進、人材育成のための機会の提供					
開催日時	2次選考 平成19年9月16日(日)13:00～ (1次選考 平成19年7月22日(日))					
会場	鳥取県民文化会館梨花ホール					
入場料・参加費 (友の会)	無料					
集客状況	入場者数	363名	設定席数	948席	集客率	38.3%
事業費状況	予算額	収入 0円	支出	4,897,000円	収支比率	0%
	決算額	収入 0円	支出	3,036,471円	収支比率	0%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてオーディションを拝見しました。県内の優秀な音楽家の方々の貴重な演奏を聞くことができ、感激しました。みなさん、とてもすばらしかったです。 ・普段、ふれることのないクラシックの演奏会(オーディション)を多くの人にPRして会場をいっぱいにし、アーティスト達が意欲を持ち演奏できる様に、スタッフの皆さんにもがんばってほしい。 ・無料ということをもっと前面に出して、もっと宣伝されたら、もっとたくさんの方が聴きにいられたと思います。パンフレットに出演者の経歴などをあればよかったです。生のクラシック音楽を聴ける素晴らしい機会だと思います。 ・年々充実しているように思います。是非継続して欲しいです。トロフィーをもっと大きいものにしてはどうでしょうか。なんとか中高生を観客に集めたいですね。 ・審査は委員だけでなく、一般参加者にも一定枠のポイントをあたえるべきだ。そうでないと面白くない。 					
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <p>①実行委員制度を廃止し、財団事務局主体での運営とし、当財団アドバイザーの監修・指導の下、昨年度の問題点を中心に慎重、かつ公正に事業を推進できた。</p> <p>②過去のマナーに関する指摘を踏まえ、配布物(マナーガイド)、アナウンスで徹底した結果、円滑に実施できた。</p> <p>[課題]</p> <p>①量的な面で、参加者・聴衆ともに減少している。分析して新しい層の掘り起こし等今後の対応を考える必要がある。</p> <p>②将来性のある若手演奏家を応援していこうとする鑑賞者の育成に課題を残した。</p> <p>③集客方法も、根本的な仕掛け(学校の吹奏楽部の鑑賞事業のイベントとして、公式に組み込んでいただく等)を検討する必要がある。</p>					
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <p>①文化芸術アドバイザーを監修者としたことはオーディションの公平性の面からも良いと思う。</p> <p>②出演関係者には広報も良く行われた。</p> <p>③波及効果は私のまわりではあると思っている。これを目指して勉強している人もいし、目標となっている。</p> <p>④第一次予選から公開にしたのはとても良かった。一次・本選と立ち会うことが出来、審査の妥当性とか、納得行くものであり、透明性が主張できたことは、大きい成果である。</p> <p>⑤この人材発掘事業は全国的に見ても例はなく、とても有意義であり、県文化事業として誇れるものであると思う。</p> <p>[課題]</p> <p>①このオーディションが県出身・在住の応募有資格者の何%に伝わったのかを検証してみる必要はないだろうか。</p> <p>②入賞者だけでなく、参加者も他事業で活躍していただく場を設定する等充実させていければと考える。</p> <p>③入場者数より受験者数が問題だと思う。</p> <p>④入賞者を甘やかすことなく、大人の社会人としての常識をも含めて育てていく必要がある。</p> <p>⑤質、量ともに目標値を向上させていく事業として、一度再検討をしてはどうか。</p> <p>⑥本来若年層を育てるということは教育の現場で行われるので、そことの連携は、是非必要と思う。学校教育へのアプローチはとても大切。</p> <p>⑦マスコミ等を活用してもっと知らせる事が大切ではないかと思う。</p> <p>⑧参加者だけでなく、聴衆者の質的向上及び聴衆の新たな掘り起こしも考えていただきたい。</p>					
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・オーディションの質の担保、鑑賞者の育成など公正で権威あるオーディションにしていくため、2巡目までの検証を行う。 ・受験者の出身校への積極的な協力依頼、中・高等学校の吹奏楽部等の定期的な鑑賞事業のイベントとして組み込んでもらうなどの仕掛けを検討する。 ・マスコミとのタイアップを図り、2次通過者を追っかけ取材してもらい、一人ずつ紹介してもらおう等、盛り上げていく仕掛けを検討する。 ・過去の受賞者の活躍の場を提供していく企画を検討していく。 					